

血液培養のボトルが 複数提出された患者の割合

99.7 %

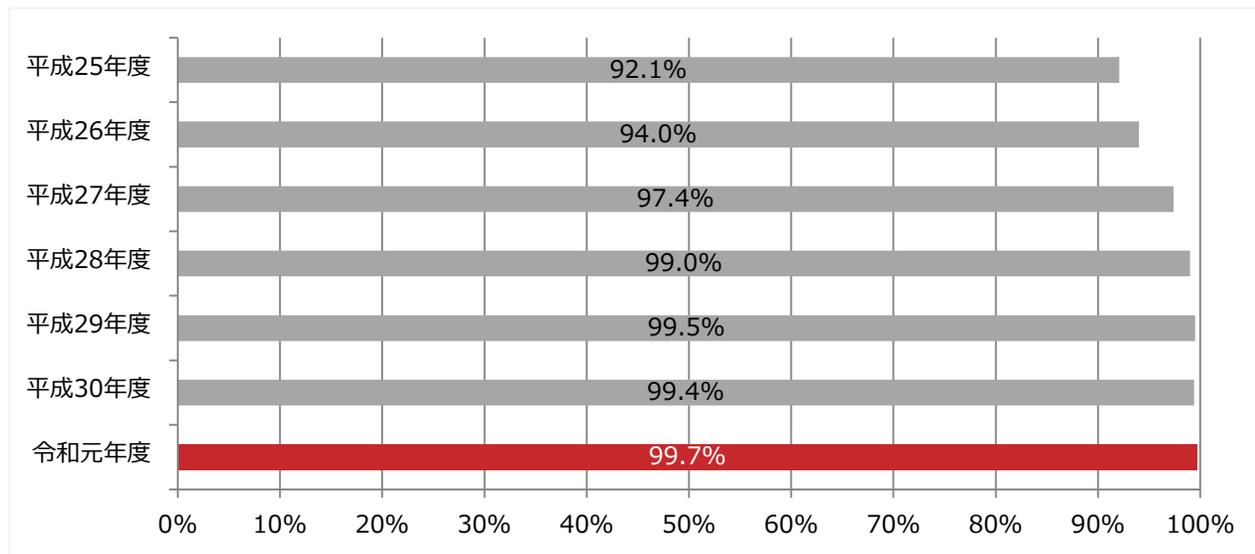
(平成31年4月～令和2年3月)

指標の説明

重症な感染症の場合は菌血症(血液中に微生物《細菌や真菌など》がいる状態)を伴っていることが少なくありません。このため当院では感染症の適正診療を行うべく、重症感染症の場合や不明熱の場合は特に血液培養の採取を推奨しています。また、血液中の微生物を検出する血液培養の検出感度は1セット採取で73%程度、2セット採取で94%程度と、1セット採取よりも2セット採取の方が検出感度が良好になることが知られています。また、2セット採取は原因菌か採取時の汚染かを判定するためにも重要です。

(参考文献) 1)Ann Intern Med. 1993 Aug 15;119(4):270-2、2)J Clin Microbiol. 2007 Nov;45(11):3546-8

(対象症例数：2,111件)



値の算出方法

(同一日の血液培養検査で複数の培養ボトルが出された延べ患者数) / (血液培養検査が行われた延べ患者数) × 100 (%)

考察

当院では平成24年度から90%以上を保ってきていましたが、平成25年度から感染症内科を中心としてICT委員会でさらに複数セットの採取を推し進めた結果、平成29年度は99.5%と高水準となりました。『血液培養2セット採取』は現場スタッフの理解と努力もあり、ほぼ常識となりつつあります。

培養の結果を活かし、より適切な感染症診療を継続していけるように、ICT一同心がけております。